

平成 29 年 2 月 1 日

(当院の外来化学療法室で治療を受けられた患者様方へ)

熊本地震における都道府県がん診療連携拠点病院の
外来化学療法センターの役割に関する調査研究についてのお願い

がんセンター 看護師長 岡本泰子

平素から、皆様には大変お世話になっております。
今回、外来化学療法センターでは、熊本地震における都道府県がん診療連携拠点病院の
外来化学療法センターの役割に関する調査結果を関連学会で発表する旨を考えておりま
す。つきましては、下記に研究概要を示しております。

調査研究は、患者様のプライバシーを厳守し、個人が特定できないように致します。
もし、対象となられる方で、研究内容に異議や疑問等がありましたら、下記の連絡先ま
でご連絡いただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

研究テーマ

「熊本地震における都道府県がん診療連携拠点病院の外来化学療法センターの役割」

1. 研究目的

災害時のがん医療においては、阪神大震災、東日本大震災の経験を踏まえて外来通院
中のがん患者が災害時に治療継続するためのシステムが報告されています。本研究では
熊本地震での当院の取り組みと課題を分析し、災害時における都道府県がん診療連携拠
点病院の外来化学療法センターの役割を振り返り、明らかにしたいと考えております。

2. 研究方法

地震に関する当院で行った会議の記録と、当院の外来化学療法中の患者様の電子カル
テから、性別、年齢、家族背景、がん腫、既往症、治療日、治療内容、避難状況（車中
泊か避難所か自宅か）、有害反応（感染症、血栓症、その他の合併症）の重症度、当院
への連絡・受診状況・入院・転院情報・震災後の課題・相談支援内容・有害反応予防へ
の対応をデータとして抽出して質的に分析します。

3. 調査の対象となる患者様

平成 28 年 3 月～平成 28 年 6 月に当院の外来化学療法センターで治療を受けた患者様

4. 研究の倫理的配慮

調査結果は、個人が特定できないように患者様のプライバシーを厳守します。対象と
なる患者様の性別、年齢、家族背景、がん腫、既往症、治療日、治療内容、避難状況、
有害反応の重症度、当院への連絡・受診状況・入院・転院情報・震災後の課題・相談支
援内容・有害反応予防への対応の情報のみ抽出し個人が特定できる情報は記述しません。
なお、研究データの匿名を厳守しプライバシーを保持することで、本研究参加における
不利益は生じません。さらに、本研究は、研究対象となることをいつでも拒否できる権
利を有するため、疑問や研究参加の中止に関してはいつでも遠慮なく下記へご連絡お願
ひいたします。

5. 利益相反について

本研究に携わる全研究者と本研究の利害関係については、熊本大学大学院生命科学研究
部等臨床研究利益相反審査委員会の承認を得ております。

(研究責任者名) がんセンター 看護師 岡本 泰子

(研究担当者名) がんセンター 看護師 森 奈緒美

がんセンター 看護師 安達 美樹

(連絡先) 熊本大学医学部附属病院 がんセンター 研究担当者 岡本泰子
電話番号 096-373-5637